

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラス

第 2 回(8/6 実施)レポート

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラス第 2 回が開催されました。今回のテーマは、「社会課題を探せ！～モヤモヤ期の過ごし方～」。

前回の授業で、自分の問題意識や叶えたいことを突き詰めました。「考える中で、あるいは実行する前段階では、自分の理想と現実にモヤモヤしていることでしょう」と講師の吉弘氏。そんなモヤモヤを正面から受け止め、「みんな、全力で悩んでみよう！」と授業はスタートしました。



◆自分自身のモヤモヤに向き合う

まずは、課題シートへの記入の時間です。プロジェクト名、プロジェクトの目的、目的の理由、あなたの理想、感じているモヤモヤを書き出していきました。

吉弘氏いわく「現代は、情報を得るためのツールが発達し、便利になった。結果として、知識『だけ』が豊富になり、熟考したり工夫したりするプロセスが無いままに行動に移す人も多い。すぐに結果を求めてしまう。これはまちづくりがうまく行かない理由の一つである。」とのこと。プレミアムクラスの受講生には、授業を通して「見失いがちなプロセスを意識して考えてもらいたい」と話がありました。

「例えば、ひとつの問題を解決するために、『モノを買う』という選択肢を選ぶのは簡単。でも、その先、誰がどうやって維持していくのか？お金は誰が出すのか？等、細かく考えれば考えるほど、難しくモヤモヤが出てくる。そのモヤモヤに向き合い考え続けることで、自分のプランは洗練されていき、より実現性が高まっていきます。」とのこと。モヤモヤに向き合う時間はスッキリしない部分もありますが、このプロセスが大事なんですね。

どんどん手が動く人、手が止まっている人…どちらも間違いではありません。家で課題シートを書いてきた受講生も、さらに細かく清書するなど、全力で目の前の問いに向き合



っている様子が見られました。個人ワークの時間には、しっかり自分自身の気持ち・考えに向き合うことで、他の受講生との共有する時間が充実したものになりました。

◆ダンスではない！？「トークフォークダンス」



次に行ったのは、「トークフォークダンス」です。これは、受講生が二重の円のように椅子を並べ、フォークダンスのように相手を変えながら意見交換をしていく手法です。

初めに、外側に座った方が自分がやりたいプロジェクトの内容や、抱えているモヤモヤを3分間で話します。次に、内側に座った方が、1分間で感想や意見などを伝えます。その後、相手を変えながら、どんどんいろいろな受講生と意見交換をしていきました。



相手を替えながら自分の「やりたい」をプレゼンテーションすることで、伝える力が自然とついていきます。3分間は長いようにも感じられますが、自分の「やりたい」熱い思いを伝えるには、時間が足りない受講生もいるほど。決して狭くはない会場が、熱を込めて語る受講生で賑わいました。

授業後のアンケートでは「相手を替えて話を何度も繰り返すのは疲れたが、話すたびに自分の『やりたい』にパワーがこめられるよ

うな気がして楽しかった」「今までに経験したことのない授業です」「(自分以外の)22人全員と話したかった」などの感想も。相手からのフィードバックを経て新たな視界が開けた受講生も、逆に「足りない部分」に気づいてモヤモヤが増えた受講生も、様々だったことでしょう。同じ方向を目指す仲間が見つかった！という人もいるかもしれません。

◆第2回授業総括

今回の授業で最も大切なことは、「プロセスをしっかり考えること」です。深く考え、自分のやりたいことに対して障害となる「モヤモヤ」を掘り起こし、それをいかに解消していくかを深く考える時間が必要となります。前半で行った課題シートへの記入は、自分自身と深く向き合うという作業でした。

そして後半のトークフォークダンスでは、自分の考えを客観視し、言葉にして伝える作業を行いました。自分の「やりたい」は、相手からどう共感されるのか。足りない部分は何なのか。自分では「これ以上無い！」と思えるほど熟考したプロジェクトも、他者からのフィードバックを経ると、また新しい視点で見つめ直すことができました。

課題の本質に近づけば近づくほど、悩み(ここでいうモヤモヤ)が増幅していき、さらなるアイデアが求められます。思考の整理が出来た方、頭の中の思考回路が益々乱れた方など、受講生ごとに感じる事が様々な第2回授業となりました。

さて、次回(第3回)のテーマは、『「絵にかいた餅」を書いてみる』です。これまでモヤモヤに向き合ってきた受講生の皆さん、モヤモヤの解消まであと少しです！次回からは、論理的にプランを組み立てていく作業に入っていきます。